

企業の社会的責任（CSR）

ANAではCSR活動を、経済、環境、社会というトリプル・ボトムラインの三つの分野で、幅広く行っています。2005年4月に「CSR推進委員会」を設置し、社内のCSR活動のとりまとめを行い、強化していきます。日本環境経営学会と環境経営格付機構が行う「環境経営格付」に参加し、2004年に公表された第2回格付けでは、特に優秀な11社に選定され表彰されました。

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

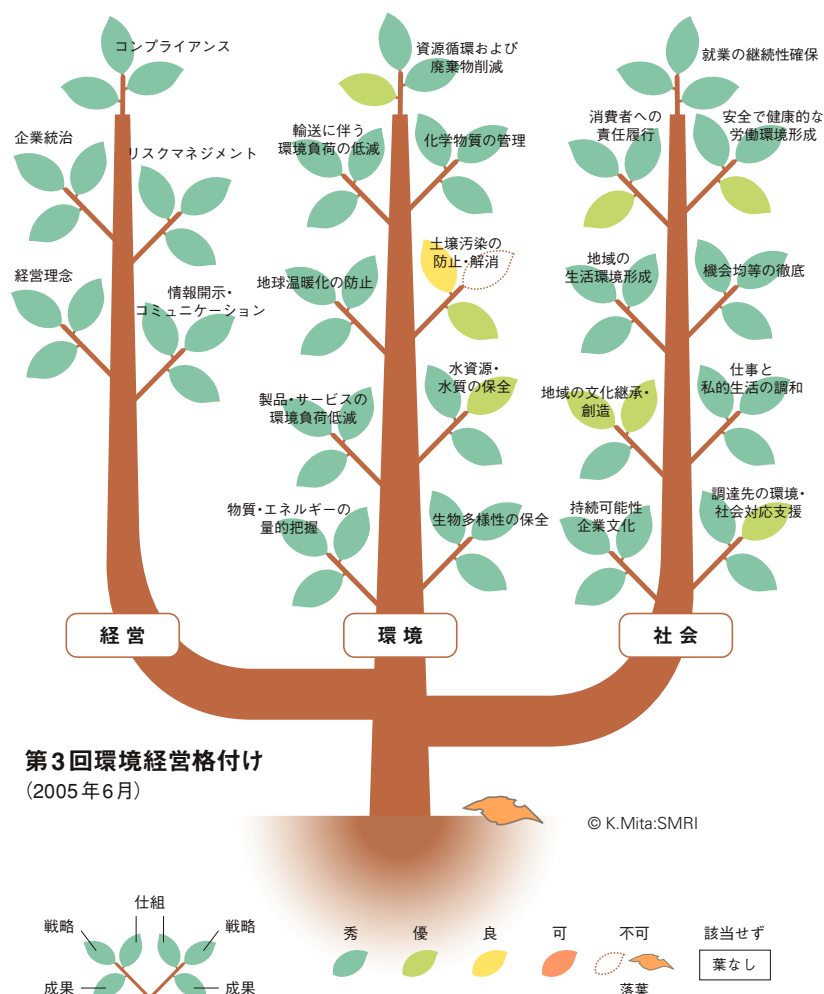
企業価値の継続的な向上を実現させていくために、「経営の透明性」を維持し、「ステークホルダーへの説明責任」を確実に果たしていくコーポレート・ガバナンス（企業統治）の構築が必要であると考えています。

コーポレート・ガバナンスの体制

・経営体制

当社は、取締役16名、監査役4名、執行役員30名（取締役兼務者を含む）という経営体制（2005年3月現在）をとっています。業務執行上の主要な案件については、代表取締役社長が議長を務め、ほかに執行役員を兼務する常勤取締役12名、主要子会社の社長および常勤監査役2名がメンバーとなっている「グループ経営戦略会議」で審議し、意思決定を行っています。なお商法上、取締役会に諮る必要がある重要案件については取締役会で最終的な意思決定を行っています。

取締役会は取締役会長が議長を務め、社外取締役2名を含む取締役全員に加え、社外監査役2名を含む監査役4名も参加しています。当期は臨時も含め15回開催しました。



・内部統制システム

当社では「事業運営の安定化および効率化」「適正な説明責任の実行」「法規制と内部規定の遵守」を内部統制システムの目的としています。「リスクマネジメント」「コンプライアンス」「内部監査」をその実現手段としてとらえ、2003年4月にリスクマネジメント委員会、コンプライアンス委員会、監査部を柱とする内部統制システムが完成しました。

監査の体制

—内部監査

社長直属の監査部が、当社およびグループ会社に対する業務監査、会計監査を実施しています。監査は年度計画に基づき実施する定例監査と、経営層の意向や各種のリスク分析結果に基づき実施する非定例監査があります。監査結果は毎月、社長へ報告し、重要事項については当社監査役に対しても四半期ごとに報告しています。定例監査は毎年60あまりの対象事業所を往査しており、約180の監査対象先を3年で一巡する体制を確保しています。

—監査役監査

2名の社外監査役を含む4名の監査役が実施しています。各監査役は取締役会をはじめとする社内の重要な会議に出席するとともに、各事業所に対する業務監査および子会社監査を実施し、その結果を監査役会および代表取締役様に報告しています。

—会計監査

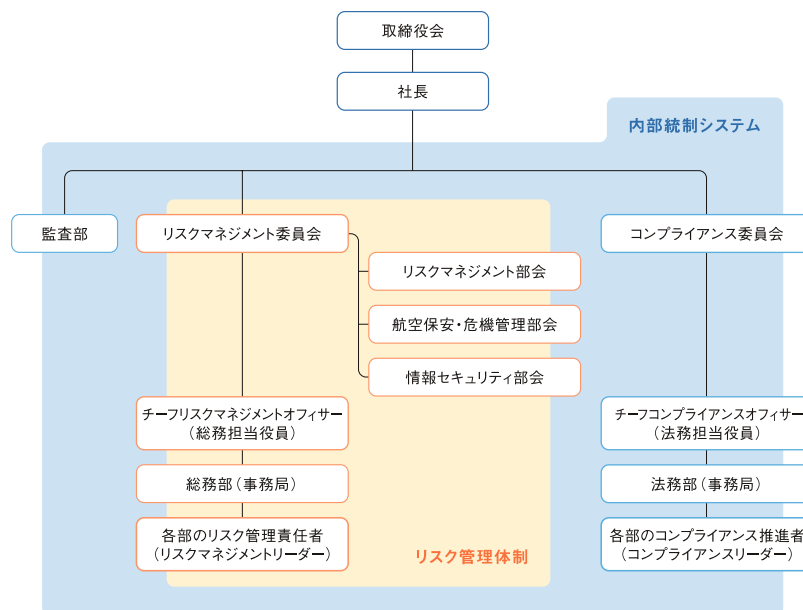
新日本監査法人が当社および各事業所、グループ会社に対して商法および証券取引法に基づく監査を実施しています。また各種法令改正や会計規則などの導入・改定に際しては、当社財務部門と十分な協議期間を設け、円滑な対応への準備をしております。監査結果は当社経営層ならびに、監査役会に対しても報告されています。

コーポレート・ガバナンスの充実に向けた当期の取り組み

・経営諮問委員会の開催

法制上の機関とは別に、ANAグループの経営についての意見やアドバイスを率直で自由に述べていただくために、各界の識者7名をメンバーとする経

内部統制システムおよびリスク管理体制



営諮問委員会を設置しており、当期は4回の委員会を開催しました。

・内部統制システムの構築

—リスクマネジメント機能

個別リスク対策として、当社の経営リソースが集中する関東圏での大規模震災や東海地震に対応する計画として制定した「事業継続計画」に基づき、情報通信機器類の耐震固定化や非常用物資の配備を実施しました。また、安否確認システムや事業継続施設の整備に着手しました。

個人情報保護の分野では、2005年4月に「ANAプライバシーポリシー」を制定の上お客様に公表し、個人情報保護規程などの規程類の改定や従業員の教育を実施し、運用体制を構築しました。

—コンプライアンス機能

コンプライアンスの浸透を2005年3月期の方針として定め、グループ会社における浸透を図るための諸活動に取り組みました。従業員に各層別の

教育を徹底するとともに、eラーニングも導入し知識付与に努めました。またイントラネットを通じたコンプライアンスの啓蒙活動を行いました。さらに職場のコンプライアンスリーダーを中心に職場の点検を進め、課題抽出とその解決を図りました。

—内部監査機能

監査部が、会計に関わる領域や個人情報保護への取り組み、諸施策の効果測定などを重点監査項目として、60を超える部門とグループ会社の内部監査を実施しました。

環境保全

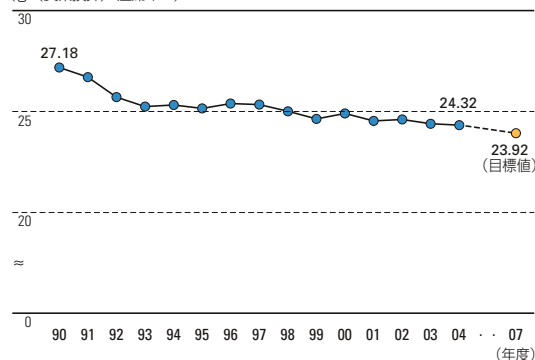
ANAでは1998年に策定した環境理念の実現を目指して「ANAグループ エコロジープラン(2003-07)」に取り組んでいます。

温室効果ガスを単位生産量当たり10.5%削減

2005年3月期にANAの航空機(国内および国際線)が排出したCO₂は663万トンで、前期に比べ3.2%削減しました。単位生産量(座席キロ)当たりでは、24.32グラム・炭素/座席キロに削減され、基準年である1991年3月期と比較すると10.5%抑

ANAの座席キロ当たりCO₂排出量

(g-(炭素換算)/座席キロ)



制され、削減目標の12%にさらに近づきました。ANAグループは経団連の航空業種目標(1990年比の単位生産量当たり10%削減)を既に達成しています。

ANAグループは、航空機を最新式のボーイング737-700型機やボーイング777-300ER型機に更新を進めるとともに、シミュレーターの活用や運航方式の改善により、CO₂の排出抑制に努めています。またさらなる抑制のため、最新鋭機ボーイング787型機を世界で最初に50機発注しました。一方、各事業所で省エネルギーに本格的に取り組んでおり、特にエネルギー消費の多い訓練センター地区や羽田の機体整備工場では削減計画を立てて実行し、電力や水の使用量をこの3年間で12~22%も削減しました。

低騒音機への更新進む

ANAでは航空機の騒音低減に取り組んできました。現在運航している航空機は国連の下部機関であるICAO(国際航空機関)が定める騒音基準を1994年にすべてクリアし、2006年以降に製造される航空機に適用される将来の騒音基準にも、ほとんどの航空機が適合しています。

第2回国際環境絵本コンクール開催

環境社会貢献事業の一貫として、ANAグ

ループでは2003年5月に「国際環境絵本コンクール」を開始しました。「環境、自然、生物、資源について、あなたが大切にしたいことを絵本に」をテーマに、広く世界中から作品を募集しています。2005年1月に第2回国際環境絵本コンクールの審査・選考が行われ、松岡芽衣さん(ロンドン在住)



第2回大賞受賞作品「テンさんとカメさんとムリさん、旅に出る」



第2回「私の青空」国際環境絵本コンクール表彰式

の作品が大賞に選ばれました。現在、第3回作品を募集中です。

サンゴ礁保全活動

2004年5月に沖縄・万座ビーチでサンゴの植え付けを行い、サンゴシンポジウムを開催しました。

ANAは、ほかの12企業とチーム「美(ちゅ)らサンゴ」を結成し、地元の恩納村漁業協同組合やホテルなどの協力により活動を進めています。



サンゴの植え付け

社会貢献

ANAグループは「社会の一員として社会に役立つ事業活動を行う」という基本認識を持ち、社会貢献活動に取り組んでいくことを、ANAグループ行動基準にうたっています。

新潟中越地震被災者への支援活動

ANAグループは、2004年10月23日に発生した新潟県中越地震の被災者を支援するために、臨

時便や不定期便の運航、支援物資の無償輸送協力、航空機の除雪車による避難所への温水提供、機内毛布やグループ役職員からの募金の寄贈などを行いました。

赤い羽根共同募金

例年実施している「赤い羽根共同募金」の輸送協力では、「赤い羽根」を日本全国39地区に空輸し、各地で募金活動が行われます。この活動は1962年から続けられており、機体の一部に「赤い羽根」のデザインシールを貼り付け、募金活動を支援しています。



新潟県中越地震の避難所への温水提供

チェンジ・フォー・グッド

1998年より、ユニセフ(国連児童基金)の航空機内募金活動「チェンジ・フォー・グッド」に協力しています。この活動は航空機内で募金を呼び掛け、集まったお金を開発途上国の子どもたちの健康を守り、教育を普及させるために役立てることを目的にしています。ANAはニューヨーク線、ワシントンD.C.線、ロサンゼルス線の日本到着便で募金活動に協力しています。

客室乗務員の手話活動

ANAでは客室乗務員に手話技能者が増えていきます。手話ができる客室乗務員をお客様に認知していただくために、2004年8月から手話バッジをつけることにしました。お手伝いが必要なお客様に、空の旅を楽しんでいただけるよう、サービス向上につなげていきます。